

羽 生 市 移 住 G U I D E B O O K

Ha NEW LIFE

都会も田舎も選択しない暮らし方。

TAKE
FREE

ちやうどイイまちで、
ちやうどよく暮らす。



ここで新しい暮らしを始めれば、都会と田舎の良さをイイトコどり！
そんな暮らし方を知ってほしくて、^{ハニュー}HaNEW ^{ライフ}LIFE を製作しました。



理想の暮らし
CLIP

CONTENTS

P2-3 理想の暮らし CLIP

P4-7 HaNEW LIFE

Case01 金城さん Case02 小磯さん

Case03 澤さん Case04 竹内さん

P8-9 City information

P10 ココで暮らすイイトコ。

P11 公式インスタグラム

コワーキングスペースとして利用できる MD Library（下段参照）。都心への出社も電車で乗れば約 60 分。

おしゃれ空間でお仕事



1

農産物直売所・むじなも市場でショッピング。地元野菜をたくさん食べて、明日からの元気をチャージ！

おいしい食材探し



4

気の向くままにお散歩



3

自然豊かな羽生水郷公園でのんびりお散歩。休日には、敷地内のさいたま水族館でお魚鑑賞もオススメ！



2

カフェでほっと一休み

ランチは駅近のレトロな喫茶店がお気に入り。コーヒーの香りやケーキの甘さに、心も体も癒されます。

PICK UP!



MD Library

地域活性化の取り組みで商店街に誕生した「まちのえき」。
図書スペースとしての利用のほか、スモールオフィス・教室・展示・イベントの開催など、さまざまな用途を想定した施設です。
羽生駅東口から徒歩 10 分圏内にあり、Wi-Fi も完備しているので、コワーキングスペースにも最適。利用料は応援金として、まちの発展にもつながっています。

▼問合せ 商工課 TEL048-560-3111



これ以上ないくらい家族を幸せに。 縁もゆかりもない土地への移住を即決

羽生市への移住を契機に、夢のマイホームを手にした金城さんご家族。仕事や習い事ですれ違いもありますが、毎日が笑顔にあふれています。



CASE-01

1



3



2

1. 家族団らんの時間はいつも楽しい会話が飛び交います
2. 出勤前の慌ただしいときも、家族とのコミュニケーションを最優先に考えます
3. 「パパ、行ってらっしゃい」。寂しい気持ちを抑えて、笑顔でお見送り

ちよつとした時間が 家族の幸福度を変える

「一生懸命仕事をして、家族に特別な経験や暮らしをさせてあげたい」

外資系金融機関に勤める唯仁さんは顧客の都合を第一に考え、週の半分は首都圏のホテルで生活。週休は一日という多忙な日々を送っています。

それを支える、妻の愛実さんは現在専業主婦。一人で家事や育児をこなし、あつという間に一日が終わりますが、不満を感じることはありません。

「用事がなくても、時間があれば夫と電話で話をしています。一般的な家族よりも会話は多いかも…」

共有できる時間が限られているからこそ、コミュニケーションを大切にしている金城さんご夫婦。久々に家族がそろえば、目一杯そのひと時を楽しみます。

「将来、子どもたちがパパと同じ仕事をしたいと思うくらい、自分なりの愛を伝えていきたいと考えています」

Profile

金城唯仁・愛実さん

埼玉県熊谷市から移住
(2016年)

夫：唯仁さん（30歳）、妻：愛実さん（31歳）、長女：唯七さん（7歳）、長男：唯人さん（5歳）、次男：大来さん（0歳）の5人家族。唯仁さんは学生時代に水球日本代表候補選手として、愛実さんはアーティスティックスイミング日本代表選手として活躍。2015年に夫婦となり、自分たちの経験を子どもたちの成長につなげたいと日々奮闘している。

海辺への憧れを捨て 移住先を変えた理由

結婚後、仕事の都合で埼玉県熊谷市のアパートで暮らしていた金城さんご夫婦。唯仁さんには昔から「海の近くで暮らしたい」という夢があり、マイホームの購入にあたり、さまざまな地域を見学したのは、海もなく、一度も訪れたことすらなかった場所でした。

「初めて羽生市を訪れたとき、妻が移住を即決しました。快適な日常生活が送れると直感したようです」

愛実さんが気に入ったのは、渋滞や狭い道が少なく車移動に便利なことや、子どもたちが遊べる公園が充実しつつ田舎すぎないところ。首都圏での仕事が多い唯仁さんも、これまで不便を感じたことはないといいます。

「首都圏にも車で気軽にアクセスでき、手頃な価格でマイホームを持てました。本当に満足しています」

二人三脚で踏み出した新たな一歩 仕事と子育てを両立した理想の暮らし

神奈川県から移住し、現在は洋菓子店を営む小磯さんご夫婦。
子どもとの時間を大切にしながら、今日も笑顔でお客様を迎えます。

家族で過ごす 大切な時間を再認識

伸太郎さんは毎朝6時頃、薄暗いうちから厨房に立ち、仕込みを開始。真弓さんは子どもたちの朝食の準備や保育園の送迎を済ませ、9時頃からお客様を迎える準備を始めます。

「オープン前には必ず二人でコーヒーを飲みながら一日の段取りを確認するんです。一息つける時間ですね」

閉店時間は夕方5時半。営業中、二人はそれぞれの役割に没頭しますが、繁忙期には帰宅が遅くなることも。しかし、以前とは仕事後の過ごし方にも変化があったと伸太郎さんはいいます。

「一人で飲みに行かなくなりましたね。働き方の変化で家族との距離が縮まり、その必要性を感じなくなったのかも」

休日は家族でお気に入りの羽生水郷公園へ。子どもたちが元気に走り回る姿を見守りながら、ゆったりとした時を過ごし、日々の疲れを癒しています。

移住で実現 理想のライフスタイル

「仕事も子育ても妥協しない」ライフスタイルを実現させた小磯さんご夫婦。長女の出産を契機に、真弓さんの故郷でもある羽生市への移住を決心したことが、人生の転機となりました。

「子育てに適した静かな住環境はもちろん、保育園などのサポート体制が整っていたので、仕事にも集中できました」また、生活する中で感じたのは、これまでと異なる利便性でした。

「都内近郊は、かえって不便に感じるころがありました。羽生市は、敷地が広く駐車場も充実している場所が多い。思い立ったら気軽に出かけられます」

二人が現在の暮らしを始めて約1年半。自身の移住経験において、後悔や苦労は何もなかったそう。今後も理想のライフスタイルを満喫しつつ、たくさんのお客様が集うカフェスペースをつくりたいと次の夢を語ってくれました。



1. ショーウィンドウには、伸太郎さんが心を込めて書き上げたポップと彩り豊かなケーキが所狭しと並びます
2. 「おいしかったよ」。その言葉が二人のモチベーションに
3. 背中で互いの存在を感じながら、作業に没頭します

Profile

こ い そ し ん た ろ う ま ゆ み
小磯伸太郎・真弓さん

神奈川県川崎市から移住
(2018年)

夫：伸太郎さん(41歳)、妻：真弓さん(39歳)、長女：千紗さん(4歳)、長男：晃太郎さん(2歳)の4人家族。

伸太郎さんはフランスにルーツを持つベーカリーで17年間下積み。羽生市へ移住後、市商工会の創業支援セミナーで経営の知識を身に付け、令和元年7月に洋菓子店「パティスリーブティブラージュ」を開業した。

仕事の都合で、人生の大半を都内で過ごしてきた澤さんご夫婦。退職を契機に移住を決意し、にぎやかな一步を踏み出しました。

退職後のアフターライフとして 娘家族との“半同居”暮らしを実現



CASE-03



- 1.澤さん夫婦（右）と長女家族（左）。共有する時間が長いので、全員わが家のような感覚でリラックスできます
- 2.孫の成長を見守れることも、半同居暮らしの魅力
- 3.広いお庭は子どもたちの絶好の遊び場に

暮らしの変化が 心の変化につながる

澤さんご夫婦の自宅は、長女の自宅から約700メートル。孫の通学する姿を見送ることから二人の朝が始まります。「以前も車で約1時間という距離感でしたが、今は徒歩で会いに行けます。おかげで孫との交流は増え、娘と助け合う機会も多くなりました」

マンション暮らしの長かった二人ですが、移住先として戸建て物件を購入。気軽に外出もできるようになりました。特に多加志さんは「羽生市の現状を後世に残したい」という想いで、カメラ片手に地域と積極的に交流。いつしか自身に思わぬ変化があったといいます。「土に触れることすら好まなかった私が、米づくりに参加させてもらうように。自然と体調も良くなりました」

60代で大きな転機を迎えた澤さんご夫婦は、暮らしの変化を楽しみながら、第二の人生を謳歌しています。

「最初は不安もありましたが、地元の方が手を差し伸べてくれたので、短期間で馴染めました。感謝しています」

※長女家族と同居に近い状態

移住提案書と題した 次女からのラブレター

仕事の都合上、東京23区内を中心に生活拠点を構えることが多かった澤さんご夫婦。多加志さんが退職した後も、当時暮らしていたマンションに住み続けようと考えていましたが、陽子さんからある提案書（ラブレター）が…。予想外の展開に驚きを隠せませんでした。

「長女が暮らす羽生市へ移住することのメリットや将来のシミュレーションが詳細に記されていました。その熱意に私たちも心が動かされたんです」

実際に移住した今、半同居暮らしのすばらしさを改めて実感。なじみのない土地でしたが、移住者に対して親切な方が多く、人と人の距離感の近さが助けになったと当時を振り返ります。

Profile

さわ たかし ゆう こ
澤多加志・祐子さん

埼玉県川越市から移住
(2018年)

夫：多加志さん（71歳）、妻：祐子さん（67歳）、次女：陽子さん（36歳）の3人家族。

多加志さんは2019年の退職まで鉄道関係の仕事に従事。主に東京都中野区や豊島区などで暮らし、仕事に打ち込んできた。

【長女家族】夫：南博宣さん（41歳）、妻（長女）：芙美子さん（41）、長男：柊羽さん（6）、次男：杜和さん（4）。

会社員からの一大決心 市特産品“キュウリ”農家への転身

大学卒業後、会社員として物流会社に勤めていた竹内さん。
現在はキュウリ農家として、ビニールハウスへ出向くのが日課です。

休日はなくても、
時間はつくりやすい

移住の決め手は
就農へのサポート体制

「一年中、ビニールハウスの中で作業をしています、40度を超える過酷な環境になることもあるんです」

竹内さんは日中の高温になる時間帯を避けるため、毎朝5時に起床し、6時に作業を開始。1・8月は「苗植え」、3〜6月、9〜12月は「収穫」を日没まで続けます。また、キュウリ栽培の間にはネギ栽培も。繁忙期以外は一人で作業しており、就農14年目を迎えた現在も、休日を取ったことはありません。「農業は地道な管理が大切なので、ハウスに行かない日はありません。でも、時間を自分でコントロールできるので、想像よりも自由かもしれません」

竹内さんのリフレッシュ方法は週に3日程度、市内のジムで汗を流すこと。会社員として働いていた頃とは全く異なる生活ですが、今ではすっかり体になじみ、キュウリの成長を楽しむ毎日を送っています。

就農先を求めて、関東圏内の情報を集めていた竹内さん。千葉県内にも候補地を見つけていましたが、サポート体制の手厚さが決め手となりました。

「農地や出荷団体の紹介など、最も充実していました。相談しやすい窓口があったことも、後押しになりましたね」

当時は、埼玉県川口市在住でしたが、「はにゅう農業担い手育成塾」への入塾に伴い、羽生市への移住を決意。指導農家の下、農業経営のノウハウをより実践的に学びました。

1年間の修行を経て、竹内さんはキュウリ農家として独立。当時の出荷量は約15トンでしたが、現在は年間25トンを超える規模に成長しました。しかし、最近では市の特産品でもあるキュウリ農家が減少傾向にあると危惧しています。「農業は苦勞もありますが、やりがいもあります。ぜひ多くの方に挑戦してほしい。誰でも大歓迎です」



1. ビニールハウス内に入ると、視界がグリーンで埋め尽くされます
2. 成長を見守ってきたキュウリを、一つひとつ丁寧に収穫します
3. 大量の収穫は、次回へのモチベーションにつながります

Profile

たけうち ひろゆき

竹内博之さん

埼玉県川口市から移住
(2013年)

博之さん(46歳)は大学卒業後、物流会社に就職するも「生涯続けられる仕事がしたい」と、2007年から埼玉県農林公社の研修プログラムに参加。5年間農業の経験を積んだ後、知識を深めたいと、2013年から市が開催する「はにゅう農業担い手育成塾」に参加。現在は独立し約1,000平方メートルのハウスで年間約25トンのキュウリを出荷している。

羽生のことが
サクッと分かる！

まちを知って、イイ移住！！

City information

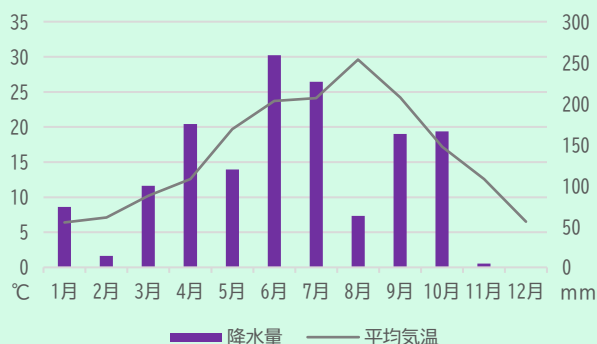
せっかくの移住で後悔しないためには、事前の情報収集が重要！
羽生市への移住前に、絶対に知ってほしい項目をピックアップしました

基本データ※

人口	54,584人
世帯	23,413世帯
面積	58.64km ²
平均気温	16.2℃
最高気温	39.6℃
最低気温	-5.2℃
降水量	1,364.0mm
雪日数	8日



降水量と平均気温※



交通アクセス



羽生駅

東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父本線が乗り入れる市の玄関口。アーチ形のステンドグラスが特徴。

東北自動車道 羽生 IC

平成4年に開通。東京・宇都宮などの各方面に短時間で移動できます。上下線のパーキングエリアも人気。



道の駅はにゅう

利根川と日光連山を見渡す風景が好評で、地場野菜などの特産品を販売。「利根自転車道」を楽しむサイクリストにも人気のスポットです。

PICK UP!

羽生チャレンジファーム

“未来へ紡ぐ農の発信拠点、”として誕生した、農業の一大拠点。24ヘクタール(東京ドーム約5個分)という広大な敷地内では、果物・野菜・ハーブなどを栽培。家族連れなどに人気のイチゴ狩りハウスには1シーズンで1万人以上が来場します。将来的には農業体験をはじめとした次世代農業のショールームを目指しており、今後に注目です。



←園内マップ
&周辺施設などの詳細はこちらから

イベント

世界キャラクターさみっと

平成25年にマスコット最多集合ギネス記録(376体)を樹立したこともある、市最大のイベント。



羽生てんのうさま夏祭り

400年の伝統を誇る夏祭り。11基のみこしと2台の山車、「おんな天王」と呼ばれる宮みこしが登場します。

子育て

「育つ楽しみ」「育てる喜び」を実感できるまちを目指し、子育て家庭への支援体制を整備しています。市内には保育所（園）・認定こども園が計 11 カ所あり、待機児童数は 0 人（令和 3 年 4 月現在）。放課後児童クラブ（学童）も計 13 カ所整備されているので、ご家族のニーズに合わせた保育が受けられます。



赤ちゃん訪問事業：赤ちゃんが生まれた全家庭への訪問事業を実施。保健師・助産師・看護師などが、赤ちゃんの発達や成長を確認するほか、育児の疑問や不安を解消するために、育児相談も受け付けています。



子ども大学事業：「はてな学」「生き方学」「ふるさと学」など、子どもたちの知的好奇心を刺激するバラエティ豊かな講義を、大学のキャンパス内や市内企業などで受けられます。

教育

「知・徳・体・コミュニケーション能力」を育むため、地域とともにある学校づくり、質の高い学習機会の提供を目指しています。小学校は 11 校、中学校は 3 校あり、全国レベルの歯科保健活動、最先端の ICT を活用した教育事業、ALT（外国語指導助手）の充実など、個性を育む特色ある教育が受けられます。

健康

生涯にわたり健康な生活を送れるよう、さまざまな健康づくり事業に取り組んでいるほか、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めています。多様な用途に利用できる市体育館や羽生中央公園が整備されているほか、全国からランナーが集まるマラソン大会を開催するなど、各種イベントも充実。



健康チャレンジ事業：目標を決めて毎日取り組む「マイチャレンジ」など、4 つのチャレンジでポイントをゲット。基準を満たせば、健康な生活習慣を楽しみながら身に付けられるだけでなく、記念品もゲットできます。



移住サポート情報

住宅改修補助金

対象住宅の所有者や居住している方が、住宅改修工事を市内施工業者に依頼する場合の費用の一部を補助します。

▼補助率 工事費の 5%

▼上限額 10 万円

▼問合せ 商工課

Tel.048-560-3111

空き家・空き地バンク

市ホームページに空き家・空き地の情報（販売・賃貸）を掲載しています。空き家などを活用した移住をお考えの方は、ぜひご活用ください。

▼問合せ 環境課（内線 294）



←登録物件の最新情報（市ホームページ）

創業支援事業補助金

市内に住所を移して 1 年以内の方が、市内で新たに創業する場合、創業に要する経費の一部（事業所等改装費、備品購入費、広報費など）を補助します。

▼補助率 対象経費の 2/3

▼上限額 100 万円

▼問合せ 商工課

Tel.048-560-3111

農業担い手育成塾

市内で営農を目指す方に向けた研修（就農支援）で、生産技術や販売手法の相談、農地のあっせんなど、総合的な支援が受けられます。農業にチャレンジしてみたいという方は、ぜひお問い合わせください。

▼問合せ 農政課（内線 283）

ち ょ う ど イ イ ま ち の コ コ で 暮 ら す イ イ ト コ 。

まちの魅力は、身近な暮らしの中で発見することが多いもの。
ここでは、実際に住んだからこそ感じる、羽生の魅力6選をご紹介します。

POINT 01

都心へのアクセスが抜群

羽生市は都心まで約 60 分と通勤や通学に“ちょうどいい、距離間。利根川を隔てて群馬県に隣接し、栃木県や茨城県などへのアクセスも良いため、各地の観光スポットなどへのお出かけにも、とても便利な場所です。

平日は自宅でテレワーク、月に数日は都心へ出勤し、休日は家族と各地へお出かけ。あなたの好みに合わせたライフスタイルが実現できます。

POINT 02

災害の影響を受けにくい

地震、台風、津波…。せっかく見つけた快適な暮らしも、たった一度の災害で一転してしまう可能性があります。

もちろん、羽生市も例外ではありませんが、山間部がなく平坦な地形という特徴から、災害の影響を受けにくい場所といわれています。また、さまざまな防災訓練も行われているため、万が一のときも安心です。

POINT 03

日常生活の利便性が高い

市内には魅力的な個人店、8つの商店街、年中無休の大型ショッピングモールがあり、令和2年には新たに「愛藍（あいあい）タウン」もオープン。住宅街区・商業施設・病院が1km圏内にまとまった、暮らしやすくにぎわいのある街です。生活に必要な施設がコンパクトに集約され、各エリアをつなげる歩道や公園も整備されているので、お散歩をしながら気軽にショッピングが楽しめます。

POINT 04

医療体制もバッチリで安心

さまざまなニーズに合わせた地域の医療機関と最新鋭の医療機器を備えた羽生総合病院が連携しているので、遠方に出向くことなく十分な医療が受けられます。

また、羽生総合病院は令和2年の新設時、ドクターヘリ発着場を設置。災害拠点病院にも指定されており、有事の際も迅速に対応できる万全の体制が整っています。

POINT 05

パパ・ママも安心の教育環境

子どもたちの知的好奇心を刺激する「子ども大学はにゅう」、高校生が講師として開催する「高校生インストラクター講座」など、さまざまな学習メニューを用意。また、全小中学校へのALT（外国語指導助手）の配置、一人一台のタブレット端末の完備など、子どもたちが健やかに成長できる教育環境が整っています。また、放課後にのびのび遊べる公園も多く、家族連れも安心して新生活が始められます。

POINT 06

市内イベントがいっぱい

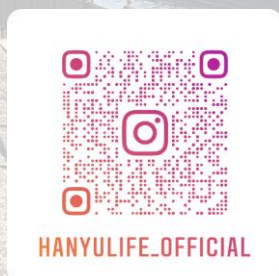
羽生市を一躍有名にしたイベント「世界キャラクターさみっと in 羽生」。日本全国・世界から集まったキャラたちの魅力に触れようと、毎年多くの家族連れでにぎわいます。

その他にも、市内では自然や文化に親しめるイベントを多数開催。「さくらまつり」「農業まつり」など、地域交流やまちの魅力を再発見する場として、大きな役割を担っています。



FOLLOW US!

羽生市(移住)公式インスタグラム



羽生で暮らす



市勢要覧 羽生 365

～まちどおしい明日、つむぐ未来～

市制施行 65 周年を記念して製作。まちづくりや取り組みだけでなく、グルメ、イベント、歴史や文化などの幅広い情報を掲載。



PR 冊子

はにゅはにゅ日和

「ムジナもん」などの市キャラクターが、市の魅力を楽しく紹介。

市ホームページ

移住関連情報をまとめた専用ページを運営。左のガイドブックや本紙で紹介できなかった情報も多数掲載されています。まずはここからご覧ください。



YouTube

公式チャンネルを開設し、イベントなどの様子を随時配信しています。市民の皆さんの様子が見られる貴重なツールですので、ぜひご利用ください。



JUST
THE
RIGHT
PLACE

都会も田舎も選択しない暮らし方。